

第2回噴火湾ホタテガイ情報(2011年)

この情報は函館水試のホームページからも、ご覧いただけます。

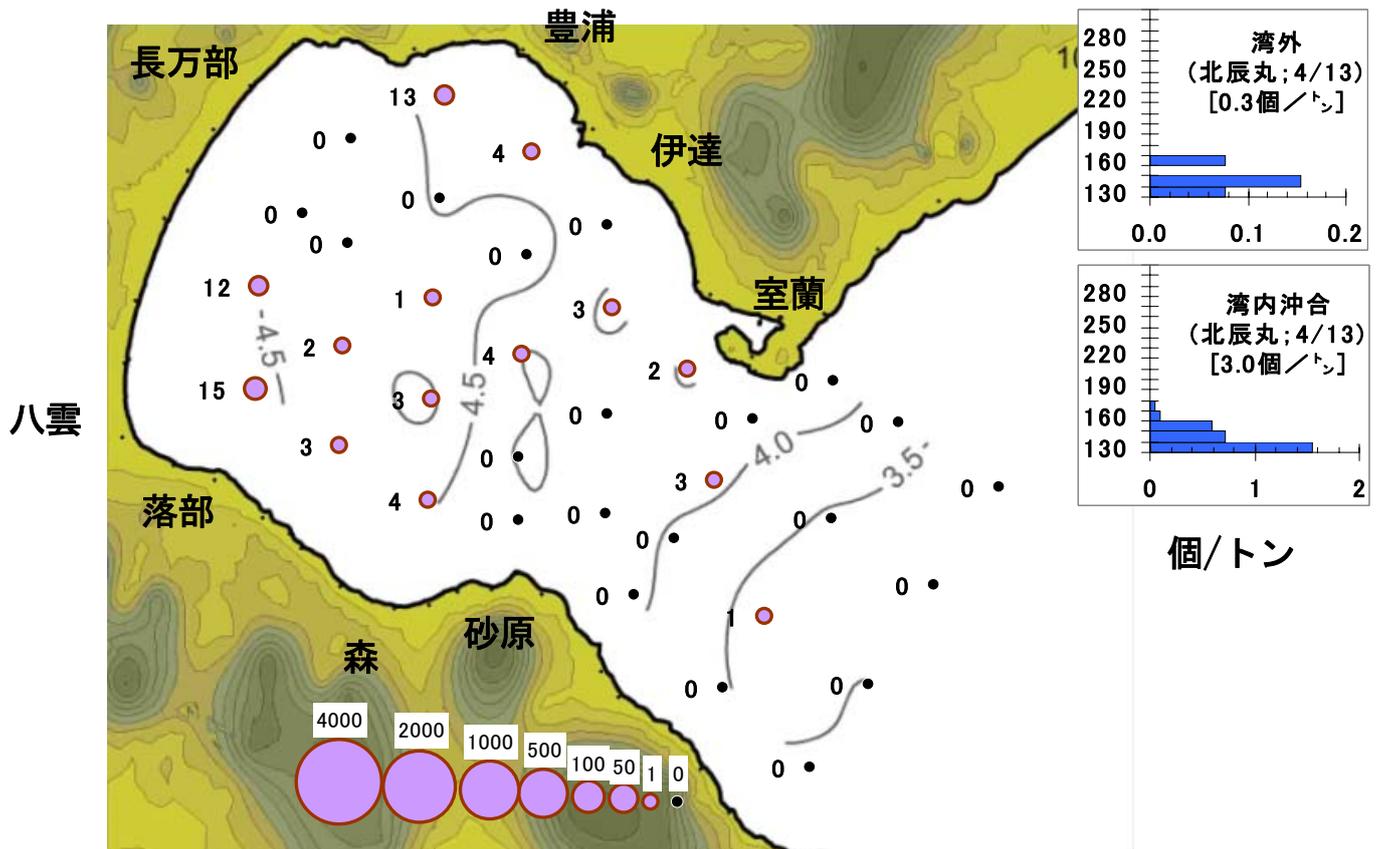
<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/scallop/scallop.html>

発行日：平成23年4月15日

函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場

胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

図1. 浮遊幼生分布状況(4/12-13) ・丸の大きさと添付数字は幼生密度(個/ト)、灰色曲線と数字は水深10mにおける等水温線と水温(°C)。



概要

4月12～13日に釧路水試北辰丸により、浮遊幼生・海洋環境調査を行いました。ホタテガイの浮遊幼生が低密度(1～15個/ト)ですが観察されました(図1)。水深10mでの水温は湾奥の森～長万部沖が約4.5°Cと高く、湾口に向かって低くなっています。湾口部～湾外の水温は4.0～3.5°Cです。浮遊幼生の殻長は主に130～140μmで、小さい個体の割合が高い状況です。各地区の地区水産技術普及指導所の最新の「ホタテガイ採苗情報」でも、生殖巣指数の低下が報告されており、産卵が始まったようです。今後、水温の上昇とともに、浮遊幼生が増えていくと考えられます。産卵は、昨年よりも1週間以上早い状況だと考えられます。各地区指導所の採苗情報を参考にして、採苗作業の準備をしてください。

次回の全湾の浮遊幼生・海洋環境調査は5月9～10日に、函館水試金星丸で実施する予定です。

連絡先：函館水試 調査研究部 管理増殖グループ 馬場・渡野邊・金森

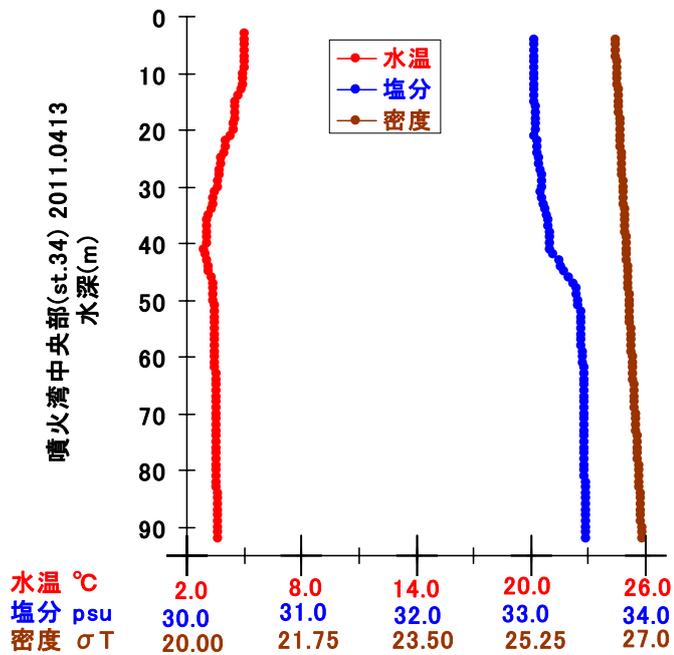


図2 最深地点(st.34)における水温・塩分・密度鉛直変化(平成23年4月13日)

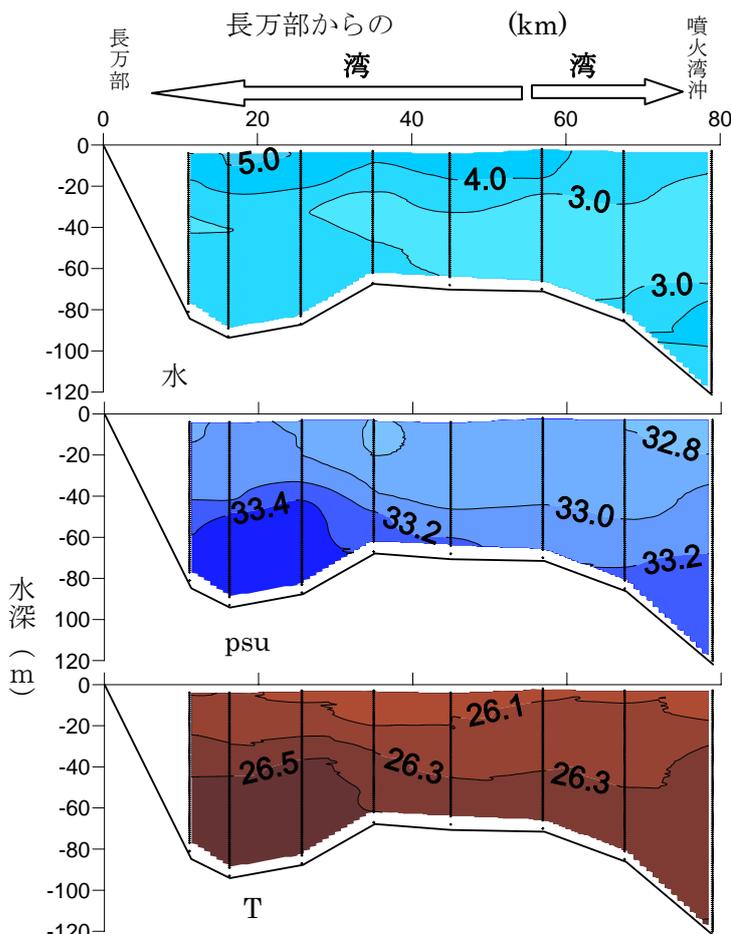


図3 噴火湾断面の環境変量分布(平成23年4月12~13日)

[環境情報]

最深地点の水温は、表層でやや高く約5°C、深度40mがもっとも低く2.9°C、40m以深ではほぼ一定で約3.5°Cです(図2)。塩分は深度40mまではやや低く33.0、それ以深はやや高く33.4です。

湾内の20m以浅の水温は4~5°Cです(図3①)。深度40m付近に3°Cの海水が分布しています。湾内深部にはやや塩分濃度が高い水塊が残存しています(図3②)。

母貝量と採苗良否について

今年(2011年)は津波の影響があり、3年貝として残してある貝(母貝、残存貝)が少ない状況と考えられます。関係者のなかには、「母貝不足が採苗に影響するのでは?」と心配している方もいます。

1980年代は貝毒の発生規模が大きかったため、貝毒の季節を避けるために出荷時期が早く、残存貝も少なかった状況にありました。つまり、母貝も少なかったと考えられます。しかし、採苗不良が頻発していたのは、貝毒が下火になり、残存貝(母貝)が増えた1990年代です。

渡島側での過去の母貝量は5~12月に出荷された量でおおよそ推察されます。そこで、母貝量と採苗の良否との関係を調べるために、5~12月の出荷量(x軸)とラーバの出現密度や種苗密度(y軸)をプロットしたのが、下図です。少なくとも過去の例では、母貝量と採苗良否には関係がなかったといえます。もちろん、母貝量が極端に減少すれば、採苗に影響すると考えられます。過去には、母貝の少なかった時代でもちゃんと採苗ができています。あきらめずに、万全の体制で採苗を実施しましょう。

今年は、甚大な津波の被害があり、かつて噴火湾が経験したことのない事態になっています。地域によっては、採苗器を吊すケタすらない地域もあります。今こそ、漁師の人情の厚さを発揮し、組合の枠を超えた協力体制で、採苗を実施しましょう。

